

# 令和元年度版 改善計画(報告)

学校名： 農林高等学校

No	項目	現状と課題	R2年度に目指すべき状態	①R1年度に実施する内容 ②R2年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営会議及び職員会議の協議・連絡事項の整理</li> <li>企画運営会議、職員会議は1時間以内である</li> <li>朝の打ち合わせ 連絡事項の精選</li> <li>職員会議の事前資料配布と併せて内容の事前周知が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議内容や連絡事項等の事前周知徹底</li> <li>課題意識をもった中での会議への参加</li> </ul>	①管理職による職員への指導（審議事項の精査、要領を得た発言、ネットワークの利用等） ・提案事項について、会議前に「管理職レク」を実施し、「提案内容の確認等」を行う。（企画の確認・提案の仕方・発言時間） ・会議回数の削減 ・会議時間の現状1時間以内を継続 ・朝の打ち合わせの改善（ネットワーク機器等の利活用拡大） ・職員会議の事前資料配布は継続する ②会議議題に係る事前の質問事項等の把握	B
2	学校行事の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高校の特色である学校行事が多いため職員の負担感が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施方法の改善と行事の統廃合など合理化を進める</li> </ul>	①運営の簡素化、合理化を進める ・事後アンケートに「軽減のための手立て」の項目を入れ、改善できる内容を検討する。 ・校外行事の削減 ・生徒指導の効率化を進める（勤務時間外の朝指導を廃止し、勤務時間内の指導とする） ②教育効果の視点からの検討 ・アンケートの分析結果の活用 ・「職場環境マネジメント」の普及	B
3	校内組織の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善検討組織を最大限に機能させ、主任を中心に組織的な業務改善を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検証後の改善した組織体制や運営体制とする</li> <li>適材適所の配置とOJTによる一層の職能開発を進める</li> </ul>	①管理職による検討 ・職員会議を介しての職員の意識改革・・・効率的な組織体制の構築 ・チーム農林の啓発 ・新しい校務分掌を担うことによる職能開発 ②改善された組織体制（H30～） ・チーム農林の構築（組織連携システム）の改善	B
4	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善項目を確実に業務に反映させる体制づくり</li> <li>教員一人一人の業務マネジメント力の向上</li> <li>主任や管理職の業務改善への取組を可視化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が年間のスケジュールマネジメントを実践している</li> <li>健全なワークライフバランスの推進</li> </ul>	①業務改善を経営方針に位置付ける ・「職場環境マネジメント」の実践 目標①「時間外勤務削減」 目標②「年休取得促進」組織目標の周知（前年度平均取得＋1日増の設定） 個人の教員評価項目に設定 教員12.8日 目標③「きずなの日・定時に帰る日」100%実施 目標④「夏季休暇5日」の完全取得 目標⑤WLB推進週間実施 目標⑥「学校閉庁日」の100%実施 ・「育児や介護を行う職員への両立支援」の普及＝子育て支援計画の立案啓発 ・生徒に関わる情報共有と指導の早期化をするために、管理職・学年主任・保健主事等の定例会議を設ける ②スケジュールマネジメントの実践 ・管理職のマネジメントの下、教員一人一人がスケジュールマネジメントの実践	A
5	部活動の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインに基づく改善と指導を進める</li> <li>複数顧問の配置を機能させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間部活動指導計画に基づき複数顧問指導体制を機能させる</li> </ul>	①業務改善を経営方針に位置付ける ・「適切な部活動指導」及び「やまなし運動部活動ガイドライン」の確認・周知 ・「職場環境マネジメント」の普及 ・「学校閉庁日」の設置 ・体育部と文化部の適正数の検討 ②顧問との業務改善に向けた面接等を継続する ・令和元年度の目標の実現を目指す	B
6	地域人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間等における地域資源の活用</li> <li>農業クラブにおける地域交流等の活動強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科の専門性等の関連を踏まえた地域人材の活用及び地域とのコミュニティーの創出</li> </ul>	①適宜、適切な人材を活用する ・総合的な学習の時間及び農業クラブ活動で連携可能な講師等を検討する ・PTA役員との有機的な結びつきを検討する（収穫祭の業務協力） ②関係機関との連携強化	B
7	5S(整理整頓 清掃清潔習慣)の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒への意義の伝達と協働的な取組強化</li> <li>職員の業務環境全般の整理整頓と日常的な点検</li> <li>GAP認証による農場環境の整備・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のキャリア教育としての定着</li> <li>職員の業務改善や5Sの定着</li> </ul>	①啓発活動の実施 ・職員室等を含め教育環境の整備を促す（机上、掲示、服務規律、PC及びネットワーク環境） ②5Sの定着	B
8	広報活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞発行(年間:農林高校新聞2回、農業クラブ新聞2回)</li> <li>内容を精選する必要がある</li> <li>新聞作成に関わる担当職員・生徒の調整が必要</li> <li>ホームページの更新は適切に行われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の新聞発行の合理化</li> <li>HPは、前年を継続する</li> </ul>	①校内分担の整理 ・様々な広報誌の統廃合（効果的な広報活動の在り方）を検討する ②適切な業務量で、本校の教育の広報力が落ちていない状態とする ・効果的な広報活動の確立	B

※達成状況:次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する  
 A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった